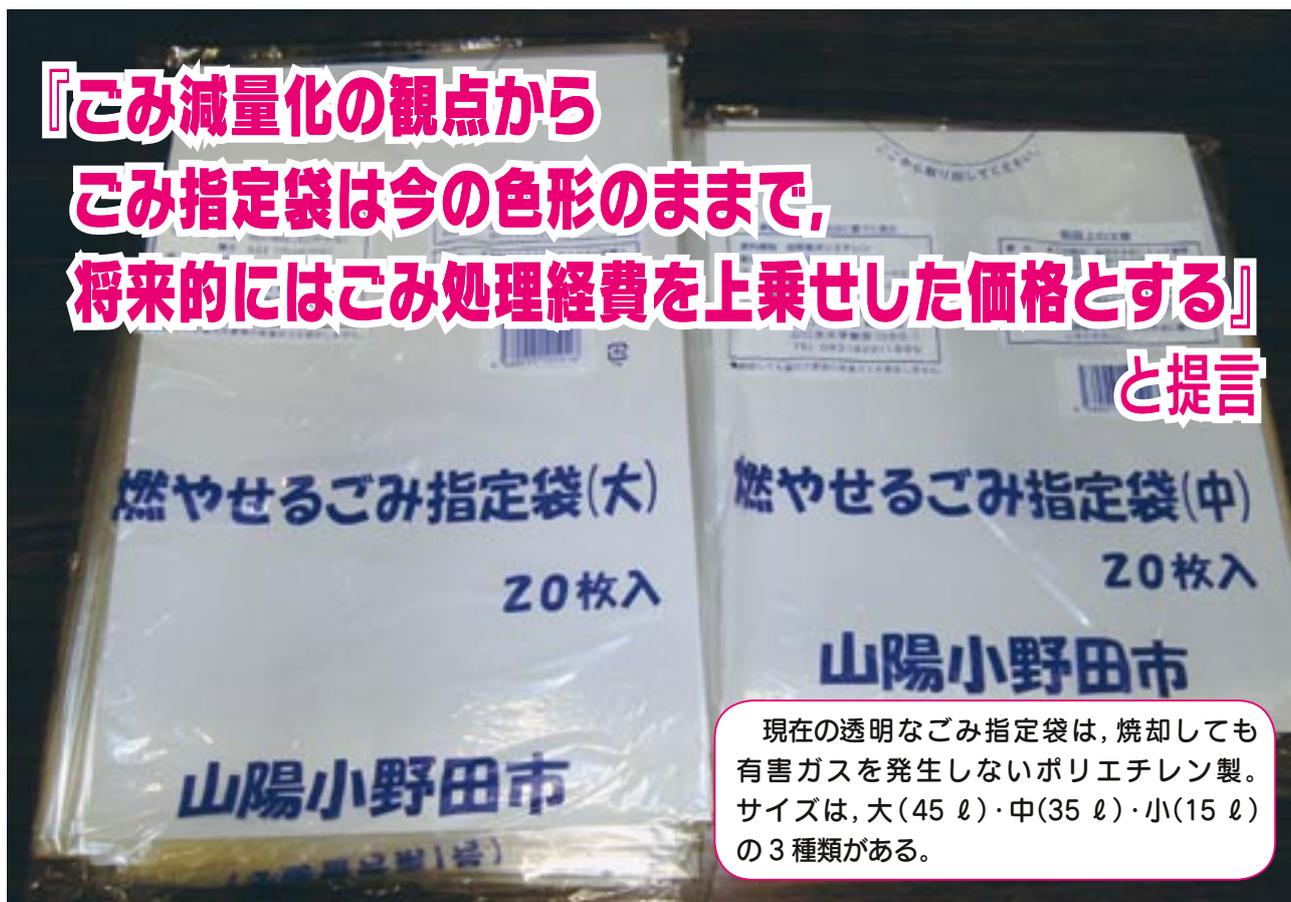


「ごみ処理対策」部会 白井市長に提言書を提出

## 『ごみ減量化の観点から ごみ指定袋は今の色形のままで、 将来的にはごみ処理経費を上乗せした価格とする』 と提言



まちづくり市民会議「ごみ処理対策」部会（森国恵子座長）が、2月24日に行った6回目の会合で、昨年7月から本格導入したごみ指定袋について、「着色や取手の取りつけをとの意見も出たが、変更にかかる経費を考慮し、色形はともに今のままで、価格は将来的にごみ処理経費を上乗せする。」という提言書をまとめ、白井市長に提出しました。また、委員から「現存のごみ処理施設の延命を図るためには、ごみの減量化に取り組むことが大切。」という意見

が多くあがったことを受け、ごみの再資源化につながる分別の仕方や、市民の意識向上を促す啓発方法などについても言及しました。（全文を次ページから掲載しています。）

白井市長は「ごみの問題は幅も奥行きも非常に大きいものです。この部会の提言をごみ処理対策検討の第一弾ととらえて有効活用し、次の取り組みへつなげていきます。」と、約3か月にわたって議論を重ねてきた委員の尽力に感謝しました。

### 部会からの提言

- 小野田地区と山陽地区で異なっている分別区分を統一。また、将来的にもっと細かく分別する。
- 小野田地区と山陽地区で異なっている可燃ごみの収集回数を週2回に統一。
- ごみ指定袋の仕様は現行のまま。
- 山陽地区の清掃工場は、（最終処分場の閉鎖後）機能縮小または廃止の方向で検討。
- ごみ減量化のための意識向上を図る。